現代の国語　単元指導計画

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 日時 | 令和〇年〇月〇〇日（〇） | 場所 | １年○組教室 |
| クラス | １年〇組（〇〇人） | 授業者 | ○○　○○ |
| 科目名 | 現代の国語 | 単元名 | よりよい書き手になるために |
| 使用教材 | 「ありのままの世界は見えない」（田中　真知）「ものとことば」（鈴木　孝夫） | 使用教科書 | 新　現代の国語（三省堂） |
| 教材観 | 本教材は、私たちが認識している世界が他の人も全く同じ認識であるわけではなく、別のものが見えている可能性があることを考えさせてくれる文章である。そして、各自の認識の背景には文化やことばが存在することにも意識を向けるきっかけをくれるものである。どちらの教材も主張を支える事例が多く挙げられており、論の展開も理解しやすい。『ものとことば』にあるように「ことばは人間が世界を認識する窓口」であるならば、学びを通して得た自身の新しいものの見方や考え方を、「ことば」によって表現することの重要性にも気づかせたい。 |
| 生徒観 | 国語の授業に対して前向きな姿勢であり、落ち着いて取り組むことができる。話すことは苦手でも、文章に書くことに関しては抵抗感が少ない生徒が多い。一方で、長い文章を読んだり論理的に自らの考えを書いたりすることには、まだ課題がある。高校１年生の国語のまとめとして、自分の意見を書くことを通して国語力に自信をもつことにつなげたい。 |
| 指導観 | 本単元を通して、普段当たり前だと思っている物事について、疑問をもつきっかけとしたい。二項対立を理解していることを前提として、それぞれの文章の内容だけでなく、思考モデルを用いることで論の展開の仕方を意識させる。ここ数年で、世界各地で対立が起きていることにも触れながら、自分たちが当然だと思って「線引き」していたり、逆に「線引き」を曖昧にしていたりする身の回りのことについて改めて考え、最終的に意見文を書く段階へつなげたい。 |

１　単元の目標

1. 主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。　　　　 　〔知識及び技能〕(2)ア
2. 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫することができる。　　　　　　　　　〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ

(３)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　「学びに向かう力、人間性等」

２　単元の言語活動

本単元の２つの教材で学んだ内容や思考モデルをもとに、「境界線」というテーマで意見文を書く。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ）

３　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1. 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。　　　　　　　　((2)ア)
 | 1. 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。　　　　　　　(B(1)ウ)
 | 1. 意見文を書くことを通して、自分の考えが相手に的確に伝わるよう、説明の仕方や表現の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。
 |

４　指導と評価の計画（全１０時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 主たる学習活動 | 評価する内容 | 評価方法 |
| １ | ・単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。○「境界線」によって区切られたり分類されたりしているものごとを確認する。「ありのままの世界は見えない」・本文を通読し、漢字や語句の確認をする。※パワーポイント〈資料①〉※授業プリント① | 〔知識・技能〕① | 「記述の点検」 |
| ２ | 「ありのままの世界は見えない」・疑問点や理解を深めたい部分を書き出す。・本文中の事例のみを書き出す。※授業プリント② | 〔知識・技能〕① | 「記述の点検」 |
| ３ | 「ありのままの世界は見えない」・主張部分を中心に内容読解 | 〔知識・技能〕① | 「記述の点検」 |
| ４ | 「ものとことば」・本文を通読し、漢字や語句の確認をする。・一般論の内容読解 | 〔知識・技能〕① | 「記述の点検」 |
| ５ | 「ものとことば」・一般論と筆者の主張の違いを理解する。○具体例を挙げる。※授業プリント③ | 〔知識・技能〕① | 「記述の分析」 |
| ６ | 「ものとことば」・筆者の主張の内容読解 | 〔知識・技能〕① | 「記述の点検」 |
| ７ | ○論の展開の仕方を理解する。（思考モデル）・意図が十分に伝わる書き方を理解する。・「境界線」をテーマとし、どのような視点で意見文を書くか考える。※パワーポイント〈資料②〉※授業プリント④ | 〔知識・技能〕① | 「記述の点検」 |
| ８本時 | ・自らの意見を支えるための適切な事例を調べる。・「●●の境界線」のようにタイトルを決め、意見文の骨組みを書く。※パワーポイント〈資料②〉、〈資料③〉※授業プリント④ | 〔思考・判断・表現〕① | 「記述の分析」 |
| ９ | ・「●●の境界線」のようにタイトルを決め、意見文の骨組みを書く。○意見文の清書を行い、自己評価をする。※授業プリント④、⑤ | 〔知識・技能〕①〔思考・判断・表現〕① | 「記述の点検」「記述の分析」 |
| １０ | ○意見文の回し読みを行う。・他者の意見文を読んだうえで、自身が意見文を書くにあたりどのように学びを調整したか振り返る。※授業プリント⑤ | 〔主体的に学習に取り組む態度〕① | 「記述の分析」 |

【単元の流れ】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・評価方法等 |
| １ | ・単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。※パワーポイント〈資料①〉※授業プリント①　単元のはじめ・（導入）教科書の絵を見て、２つの見え方があることを説明できるようにする。〇「境界線」によって区切られたり分類されたりしているものごとを確認する。「ありのままの世界は見えない」・本文を通読し、漢字や語句の確認をする。 | ・自らのもののとらえ方が絶対的なものでないことを意識付けする。・本文を学んだ後に「境界線」をテーマにして意見文を書く見通しをもたせ、取り上げられるテーマが身の回りに多くあることを意識付けする。 | 〔知識・技能〕①「記述の点検」授業プリント・記載内容を点検する。 |
| 2 | 「ありのままの世界は見えない」・疑問点や理解を深めたい部分を書き出す。・本文中の事例のみを書き出す。※授業プリント②「ありのままの世界は見えない」 | ・理解を深めたい部分は、筆者の主張部分が多くなっていることを気付かせる。・事例と主張を混同しないように、事例だけを簡潔にまとめさせる。 | 〔知識・技能〕①「記述の点検」授業プリント・記載内容を点検する。 |
| 3 | 「ありのままの世界は見えない」・主張部分を中心に内容読解 | ・私たちが見ている世界は、脳が意味づけたり関連づけたりして、わかりやすくパターン化して作り上げられたイメージのようなものであることを理解させる。・普段の生活においても、情報を取捨選択しながら過ごしている場面があることを意識付けする。 | 〔知識・技能〕①「記述の点検」ノート・記載内容を点検する。 |
| 4 | 「ものとことば」・本文を通読し、漢字や語句の確認をする。・一般論の内容読解 | ・ものがあれば必ずそれを呼ぶ名としての言葉が存在すると、多くの人が当然のように考えることを理解させる。・ある言葉が、別の言語でも全く同じものを指して別の言葉で呼ばれると、多くの人が思い込んでいることを理解させる。 | 〔知識・技能〕①「記述の点検」ノート・記載内容を点検する。 |
| 5 | 「ものとことば」・一般論と筆者の主張の違いを理解する。○筆者の主張を支えるような具体例を調べ、複数挙げる。※授業プリント③「ものとことば」 | ・「もの」が先に存在すると考えるのが一般論であり、「ことば」が先に存在すると考えるのが筆者であることを理解させる。・具体例を調べる際に、一般論の例外を考えてみるよう意識付けする。 | 〔知識・技能〕①「記述の分析」授業プリント・調べた事例が、筆者の主張を支えるための事例になっているか、記述を分析する。 |
| 6 | 「ものとことば」・筆者の主張の内容読解 | ・「ことば」が先にあって初めて「もの」を認識できるという考え方を理解させる。・筆者は「ことば」に着目していることを意識付けする。 | 〔知識・技能〕①「記述の点検」ノート・記載内容を点検する。 |
| 7 | ※パワーポイント〈資料②〉○論の展開の仕方を理解する。（思考モデル）・意図が十分に伝わる書き方を理解する。※授業プリント④　意見文準備・「境界線」をテーマとし、どのような視点で意見文を書くか考える。 | ・思考モデルに「帰納」と「比較」があることを理解させる。・２つの教材で工夫されていた書き方を教科書190、191ページのコラムに沿って確認させる。・視点を考える際のヒントを確認させる。 | 〔知識・技能〕①「記述の点検」ノート・記載内容を点検する。 |
| 8本時 | ※授業プリント④　意見文準備※パワーポイント〈資料③〉・自らの意見を支えるための適切な事例を調べる。※パワーポイント〈資料②〉・「●●の境界線」のようにタイトルを決め、意見文の骨組みを書く。 | ・事例や体験談が挙げやすいテーマと挙げにくいテーマがあることを確認させる。・自らが書こうとしているテーマに応じて、２つの思考モデルのうちどちらで書く方が適切か判断させる。 | 〔思考・判断・表現〕①「記述の分析」授業プリント・自分の意見を支えるための事例を複数調べ、意見文に採用すべきものを選ぶことができているか、記述を分析する。 |
| 9 | ※授業プリント④　意見文準備・「●●の境界線」のようにタイトルを決め、意見文の骨組みを書く。○意見文の清書を行い、自己評価をする。※授業プリント⑤　意見文振り返り | ・書くのが苦手な生徒には、授業プリントの【意見文の流れ】や教科書１９３ページの例に沿って書くように助言する。・自己評価を記入する際に、活動の振り返りをしながら客観的に評価することを促す。 | 〔知識・技能〕①「記述の点検」授業プリント・記載内容を点検する。〔思考・判断・表現〕①「記述の分析」意見文・単元を通して学んだ論の展開や知識を用い、適切な事例を含んだ内容になっているか、意見文を分析する。 |
| 10 | ○意見文の回し読みを行う。※授業プリント⑤　意見文振り返り・振り返りを記入し、自身の学びを省察する。 | ・意見文を読み終えるごとに、意見文を書いた本人へのコメントを書かせる。・コメントについては、新しい発見があったか、相手の考えが自分の価値観とどれくらい違ったか、深く考えたことがなかったテーマについて自分の考えを新たに提案してみるなどの方向で書くことを意識付けする。・他者の意見文や自分の意見文に対するコメントを読んだうえで、自身が意見文を書くにあたりどのように学びを調整したか振り返らせる。 | 〔主体的に学習に取り組む態度〕①「記述の分析」授業プリント・自身の考えが的確に伝わるよう説明の仕方を工夫できたか、振り返りの記述を分析する。 |

≪本授業における評価の実際≫

５　観点別学習状況の評価の進め方

　共通必履修科目「現代の国語」の「内容」の〔思考力・判断力・表現力等〕「B書くこと」に関する指導については、「内容の取扱い」(1)イに「30～40単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること」と示されている。このことを踏まえ、本単元では、「B書くこと」に関する資質・能力を目標として掲げ、単元のまとまりの中でその育成を重点的に図る指導と評価の計画を示している。

(1)［知識・技能］の評価

[知識・技能]①の「主張と論拠など情報と情報との関係について理解している」状況を、「主張と事例の区別、一般論と筆者の主張の違いを正しく理解し読み取っている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、ノートや授業プリントへの記述を中心に点検して評価する。

本文の読み取りができていない状況をCと捉え、個別に声をかけて、ヒントとなる本文の記述を示す、語句の意味を隣同士共有するなどし、読み取りを行うよう促す。

(2)［思考・判断・表現］の評価

[思考・判断・表現]①の「『書くこと』において、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している」状況を、「意見文の清書において、他者に伝わりやすい文章作りを意識し、『境界線』というテーマにおいて自らの視点を加え、本文で学んだ知識を活用し論述している」姿（「おおむね満足できる状況」(B)）と捉え、意見文や振り返りの記述を分析し評価する。

意見文を自分の言葉で書くことができない状況をCと捉え、自らの考えを支える適切な事例の出し方や思考モデルを参考にしながら書くよう促す。

(3)［主体的に学習に取り組む態度］の評価

[主体的に学習に取り組む態度]①の「意見文を書くことを通して、自分の考えが相手に的確に伝わるよう、説明の仕方や表現の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている」状況を、「読解を通して理解した知識や技能を活用して論述している」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、振り返りの記述や授業プリントの自己評価を分析し評価する。

本単元を基にした気づきや学びがまとめられず、努力を要すると判断する状況をCと捉え、記述や授業プリントの評価項目を参考に、単元を通して気づきや学びがどこかにないか探るよう促す。

６　学習指導案(８時間目/全１０時間)

本時の目標：ア．意見文を書く準備段階として事例を調べたり論の展開の仕方を選んだりすることで、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫することができる。　【思考・判断・表現】

言語活動：「○○の境界線」（もしくは「○○と●●の境界線」）というタイトルを決め、意見文の骨組みを書く。

本時の展開：　【使用する資料】（全体）授業プリント④意見文準備、（適宜）パワーポイント〈資料②、③〉

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点・評価 |
| 導入１０分 | □周囲と現状を共有する。□本時の目標を確認する。 | ・自分が今、どのような視点で意見文を書こうと思っているかを共有し、困っていることや次にすべきことを明確にする。・「○○の境界線」というタイトルを決め、自らの考えを支えるための適切な事例を選ぶことができることが目標であることを確認する。 | ・必要に応じて、次に何をすべきか助言する。・生徒の状況に応じて、視点を決めるヒントを再度確認させる。※パワーポイント〈資料②〉「意見文の準備①」にて |
| 展開①２５分 | □タイトルを考える際の注意点を理解する。□事例を複数調べる。◎意見文に採用する事例を選ぶ。 | ・「法律」（例えば「道路交通法」など）に関わる視点のように、結論が一つに決まってしまうものもあることを理解する。・授業プリントにしたがい、まずは自分が書きたいと思う内容を踏まえ、授業プリントに事例や体験談を書き出す。・タイトルの種類によっては、周囲の人にアンケートを取りながら事例を集める。・事例や体験談の挙げやすさを踏まえて、タイトルの方向性を絞る。・周囲とも相談しながら、自分の意見を支えるための適切な事例を選ぶ。 | ・事例や体験談が挙げやすいテーマと挙げにくいテーマがあることを意識付けする。・教科書１９３ページにあるように、事例には、他の人の体験談や複数人にアンケートした結果を含めてもよいと助言する。【目標アに対する評価規準と評価方法】規準：自分の意見を支えるための事例を複数調べ、意見文に採用すべきものを選ぶことができている方法：「記述の分析」（授業プリント、机間指導）〔目標ア達成のための手立て〕・調べた事例や体験談は、いったん箇条書きでたくさん書き出し、後で意見文に採用するものを判断するよう助言する。 |
| 展開②１０分 | □２つの思考モデルついて確認する。□思考モデルにおける事例の関係性を理解する。◎意見文に採用する思考モデルを選ぶ。 | ・「帰納」、「比較」とはどのような思考モデルだったかを確認する。・「帰納」の事例は類似のものが並ぶことが多いが、「比較」の事例は対立のものが並ぶことを理解する。・調べた事例や体験談を見返し、自分の意見文はどちらの思考モデルを使用すべきか判断する。 | ・隣同士で確認させ、今回の意見文でどちらか片方を意見文で使用することも意識付けする。※パワーポイント〈資料③〉「意見文の準備②」にて・自らが書こうとしている考えや事例を、客観的に読み返すよう促す。 |
| まとめ５分 | □次回の予告 | ・意見文の清書の完成を目指すことを確認する。・意見文の評価項目を確認する。 | ・最後には意見文を回し読みする予定であることを伝える。 |

参考：生徒とのやりとりの一例　～タイトルなどを決めていくにあたって～

①ネットで調べてもなかなかいい事例が出てこない

・クラスの子達、部活動の先輩や友達に口頭でインタビューしながらアンケートをとり、事例に加えてよい。

・同年代以外の人に聞いてみても面白いかもしれない。

・いろいろな人に聞くなかで、線引きの「揺れ」や「幅」があることに着目し、自分なりの「線引き」を考えとしてまとめる方向で進めたらどうか。

②言葉に着目して書きたい　　～「like」と「love」の境界線の場合～

・単語の意味の違いだけで終わらせないようにしたらどうか。

・例えば、「好きな○○」や「愛する○○」の「○○」の部分には、個人が無意識のうちに想定しているイメージがあるかもしれない。そういう違いに着目してみると面白いのではないか。また、そのような違いが出てくる理由まで考えてまとめることができたら、興味深いかもしれない。

③思考モデル「帰納」で書くべきか「比較」で書くべきか　　～「大人」と「子ども」の境界線の場合～

・「帰納」の場合、例えば大人と子どもの線引きについて「違和感」や「曖昧さ」をもつ場面をたくさん挙げる。それらの類似点を意識しながら、導き出せる意見（考え）をまとめるという方向で書けるのではないか。

・「比較」の場合、「大人」の定義やイメージをまとめ、次に「子ども」の定義やイメージをまとめる。対比的に両者を並べたうえで、自らの意見を最後にもう一度まとめる方向でも書けるのではないか。

④「線引きが難しい」や「線引きは曖昧」が自分の考えになってもよいか

・やむをえない場合も多いと思うが、自分なりに「白」「黒」「グレー」を明確にするイメージで考えをまとめるとよいかもしれない。「グレー」の範囲を線引きしてみるというのも、「境界線」について考えた１つの結果となるのではないか。

・「線引きは曖昧」についてはタイトルの種類にもよるが、一般論を否定したうえで、境界線としてくくることができる範囲はもっと広いと考えるという方向でまとめることもできるのではないか。（例えば、「作品」の境界線の場合）額縁に入った絵画のように一番小さな範囲を切り取ったのが作品の境界線ではない（無意識のうちにもっているイメージを否定）、という流れを作り、その後に自分の考えをまとめるのはどうか。